

先日はてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回4月のてがたんは、4月8日(土)で、「今だけ!春限定の自然観察」がテーマです。ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のてがたん下見は、4月2日(日)の9:30からです。

3月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼ふれあいライン→藤棚→市民農園前
- 観察日時と天気：2017年3月11日(土) 10:00～12:00 晴れ
- 参加人数：32人(大人27人、子ども5人)
- 市民スタッフ：6人(湯瀬一栄、弘實さと子、石原直子、木村稔、小泉伸夫、保田行弘) ※太字は今月の案内人
- 鳥博職員：2人(斉藤安行・美濃亜理彩)

観察した生き物の記録

【鳥類】

カモ科：オナガガモ、コガモ／カイツブリ科：カイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、コサギ／クイナ科：オオバン／シギ科：タシギ／カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ／タカ科：ノスリ／カワセミ科：カワセミ(声のみ)／キツツキ科：コゲラ／モズ科：モズ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：ヤマガラ、シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／メジロ科：メジロ／ムクドリ科：ムクドリ／ヒタキ科：ツグミ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ／ホオジロ科：ホオジロ、アオジ(声のみ)、オオジュリン／外来種や家禽：コブハクチョウ、ドバト

【昆虫・クモの仲間】

チョウ目：キタテハ／ハエ目：アブの仲間、ハエの仲間／甲虫目：ナナホシテントウ／バッタ目：クビキリギス／ハチ目：クロヤマアリ、クロオオアリ

【両生類】

アズマヒキガエル(卵)

【貝類】

カワニナの仲間、マルタニシ

【草の花】

ナデシコ科：コハコベ／キク科：セイヨウタンポポ、ノゲシ、オニノゲシ、ノボロギク、オオジシバリ、ヤブタバコ、フキ／アブラナ科：セイヨウカラシナ、ナズナ、タネツケバナ、ミチタネツケバナ／キンポウゲ科：ヒメリュウキンカ、タガラシ／オオバコ科：オオイヌノフグリ、ツタバウンラン／ハエドクソウ科：ムラサキサギゴケ／マメ科：カラスノエンドウ／シソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ／スミレ科：スミレの仲間／ハナシノブ科：シバザクラ(園芸種)／キョウチクトウ科：ツルニチニチソウ(園芸種)／ヒガンバナ科：スイセン(園芸種)、ハナニラ(園芸種)／イネ科：スズメノカタビラ

【樹木の花】

バラ科：ウメ、“オカメ”(品種名)／モクレン科：コブシ／モッコク科：ヒサカキ／ガリア科：アオキ

観察した生き物の記録



今回のてがたんのテーマは「春を探そう」でした。道路沿いの花の形を観察した他、冬にはあまり見られなかった昆虫なども見ることができました。



今月の案内人

湯瀬一栄さん

弘貴さと子さん



①山階鳥類研究所前で見られた外来種のツタバウンラン。



②木々を移りながら鳴き交わしていたメジロ。



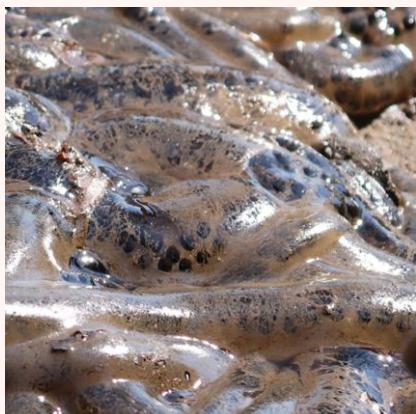
③蝶形花冠のカラスノエンドウの花。



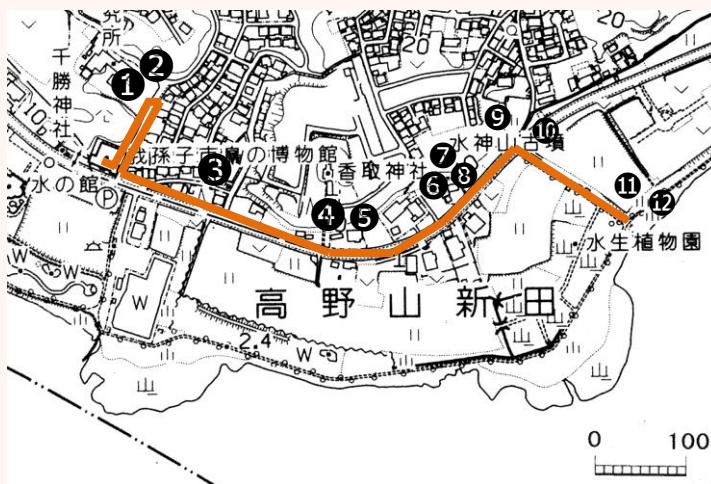
④上下に分かれる唇形花冠が特徴のヒメオドリコソウ。



⑤道路脇の草原ではナナホシテントウが見られました。



⑥アズマヒキガエルのヒモ状の卵塊。



歩いたルートと観察した生き物



⑨ふれあいライン沿いのコブシの花。



⑦地面に落ちていたメジロの巣。



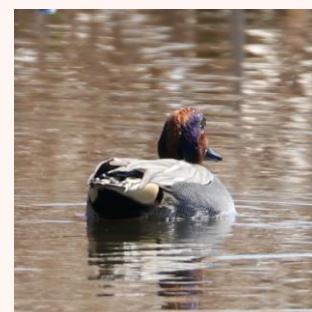
⑧アブラナ科のタネツケバナ。4枚の花弁が対になっています。



⑩藤棚の真上を2羽で旋回していたノスリ。



⑪市民農園前の湛水田を歩いていたハクセキレイ。



⑫手賀沼の水面を移動するコガモのオス。

今月の鳥 ウグイス

スズメ目ウグイス科

我孫子市では1年中見られる留鳥です。「春告鳥」や「経読鳥」といった別名もあります。一夫多妻の繁殖形態を持ち、メスのみで子育てを行います。オスは子育てに一切関わらず一日中さえずります。

気象庁では初めてウグイスのさえずりを聞いた日を初鳴日として記録しています。地図上で同じ観測日の地点を結んだものはウグイス前線と呼ばれています。



ヨシ原の中のウグイス

てがたんにご参加ありがとうございました。次回もお待ちしております。